

アルミ缶 リサイクル ニュース

July
7
2021

Vol. 156

CAN
to
CAN



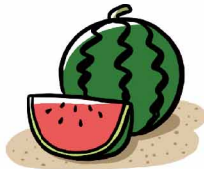
アルミ缶リサイクル協会
Japan Aluminum Can Recycling Association

東京都豊島区南大塚1-2-12 日個連会館2階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒170-0005
<http://www.alumi-can.or.jp>

第223回理事会・第49回定時総会開催 2021年度事業活動計画等承認される

当協会は、6月18日(金)に第223回理事会及び第49回定時総会を開催し、2021年度の事業計画、収支予算等が承認されました。

今年度の事業計画については本紙をご参照下さい。



第223回理事会・第49回定時総会の様子

2020年(令和2年)度 飲料用アルミ缶のリサイクル率(再生利用率)を発表

リサイクル率94.0%

当協会は、6月18日(金)に記者会見を行い、2020年度の飲料用アルミ缶のリサイクル率(再生利用率)とCAN to CAN率(国内で再生利用されたアルミ缶のうち、缶材へ利用された割合)を発表しました。

当日は約22名のアルミ業界関係、環境関係の報道関係者の皆様にお集まり頂き、花房理事長、小関副理事長、伊藤企画委員長、事務局から以下の説明を致しました。

2020年度のリサイクル率は、昨年度より3.9ポイント低下し94.0%となりましたが、目標の90%以上は6年連続で達成されました。一方CAN to CAN率は71.0%(前年度



記者発表風景(左)小関副理事長(中央)花房理事長(右)伊藤企画委員長

66.9%)となりました。但し、2020年度も約8.6万ト(前年度約8.7万ト)のUBCが輸出(主に韓国)されており、これは国内消費量の26%に相当します。



リサイクル率

※1 再生利用重量(311,143ト) = **94.0%**
国内消費重量(331,178ト)
(2019年度97.9%)

※1 輸出分含む



CAN to CAN 率

缶材向け重量(160,159ト) = **71.0%**
国内再生利用重量(225,553ト)
(2019年度66.9%)



2021年度の役員

★理事長

花房 達也(新任)

ユニバーサル製缶(株)
取締役社長

★副理事長

小関 照雄(新任)

昭和アルミニウム缶(株)
執行役員 営業統括部長

金子 友昭(再任)

東洋製罐グループホールディングス(株)
グループ品質保証・環境担当執行役員

大森 教雄(再任)

大和製罐(株) 取締役技術本部長

田中 信二(新任)

(株)UACJ 執行役員

構造改革本部長 財務本部副本部長
ビジネスサポート本部副本部長

谷川 正樹(新任)

(株)神戸製鋼所 執行役員

★監事

深井 茂明(新任)

日本軽金属(株)

板事業部 企画部 次長

山崎 祐大(新任)

三菱商事R&Mジャパン(株)

アルミ事業部地金チームリーダー

★企画委員長

伊藤 功(新任)

昭和アルミニウム缶(株)

企画管理部 担当部長

★専務理事

保谷 敏三(再任)

ユニバーサル製缶(株)



新理事長のご挨拶

この度、アルミ缶リサイクル協会の理事長に就任致しました花房でございます。就任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。当協会は1973年の設立以来、多くの皆さまのお力添えを賜りながら50年近くにわたりアルミ缶のリサイクルを推進し、環境保護、資源の有効活用、省エネルギー、CO2排出量削減に貢献することを目標に活動してまいりました。その結果、2020年のリサイクル率は94.0%と6年連続で90%台を達成することができました。新型コロナウイルス感染拡大によりリサイクル活動に関わる皆さまも大変なご苦労をされたことと拝察致しますが、このような素晴らしい成果をあげられたことに深く敬意を表しますとともに、厚く御礼申し上げます。

当協会は、容器包装リサイクル八団体で構成する「3R推進団体連絡会」の一員として3Rの自主行動計画を策定し、事業者自らが実践する3R行動を推進するとともに、他団体と協調して広報・啓発活動、各種調査や多方面の方との意見交換などを行っております。今後は更に協調を深め、各団体の相乗効果が出るような活動も模索していきたいと考えております。引き続き当協会の活動に一層のご支援をお願いするとともに、皆様のご健勝を祈念して就任のご挨拶とさせていただきます。



花房 新理事長

2021年度 アルミ缶リサイクル協会 事業活動計画

1. 概要

2020年の飲料用アルミ缶の国内需要量は前年比100.3%の約218億缶と推定され、7年連続で200億缶の大体は維持されました。新型コロナウイルスの影響もあり国内ビール系の総需要は業界紙推定で90.7%と16年連続で前年割れとなりましたが、ビール系缶需要は家飲みが増加したことで101.1%の微増となりました。清涼飲料の国内生産量は、外出自粛や在宅勤務等による需要減により95.1%と2年連続で前年割れとなり、特にアルミ缶は自販機販売の不振が影響し91.0%と大きく減少しました。しかしRTD向けが6年連続で二桁増(110.5%)となったこともあり、国内総需要量は微増で着地したと推定されます。

2020年度のリサイクル活動は、新型コロナウイルスの影響により集団回収活動の一部が制限されたものの回収量自体は前年並みと推測されます。しかし再生地金の需要減やUBC相場の高騰により回収されたUBCの一定量が市中在庫になったと思われ、このためリサイクル率は94.0%と前年を▲3.9%下回りましたが当協会目標の90%以上は6年連続で達成されました。

CAN to CAN率(水平リサイクル率)は前年よりも4.1%上昇して71.0%となりましたが、この理由は算出式の分母である国内再生利用重量が大きく減少した結果です。現在、日本アルミニウム協会と協働でCAN to CANも含めたアルミ缶の国内循環向上策の検討に取り組んでいます。

2020年の1缶当たりの平均重量は0.07g削減の16.03gとなり、2020年に2004年比で5.5%の軽量化目標に対し5.8%となり目標を達成しました。アルミ缶は食品容器として、漏洩に繋がる安易な軽量化は許されず慎重に取り組むことが必須ですが、現在もビール缶等で軽量化は進められており、引き続き関係者が一丸となって取り組み、次期目標である「2025年度に2004年度比で6.0%の軽量化」が達成されることを期待します。

UBCについては、組成率を考慮しても約8.6万トンのUBCが輸出されており、国内消費量の26%ものUBCが輸出されている実態は、国内資源循環の観点からは憂慮すべき事態と言えます。また、輸出の大半は韓国とタイ向けですが、昨年よりマレーシアや中国向けの輸出も目にするようになり、この動向にも注視する必要があります。

2. 基本方針

(1) アルミ缶リサイクルの推進を円滑に進めます

- (1) アルミ缶回収ルートの整備・支援を行います
- (2) 広報・啓発活動を行います
- (3) 調査・情報提供活動を行います
- (4) 協会企画委員会、ワーキンググループ(WG)の活動を行います

(2) 3R推進団体連絡会の一員として積極的に3R活動に取り組みます

<目標>

- (1) 安定的にリサイクル率92%以上を維持します
- (2) 2025年までに2004年比で6.0%の軽量化を目指します
- (3) アルミ缶回収協力者推薦数は、新型コロナの影響は想定されますが学校・一般とも前年度並みを維持します

3. 2021年度 事業活動計画の内容

(1) アルミ缶リサイクルの推進を円滑に進めます

(1) アルミ缶回収ルートの整備・支援

事業者責任としてアルミ缶回収率を上げるために関係者との連携、協働の推進を引き続き行います。

①当協会プレゼンス向上を目的に官庁や関連団体への訪問・支援、自治体、消費者団体との交流を積極的に行います。

- ・官庁(経産省金属課)の定期会合へ参加し、タイムリーな情報提供を行います。

- ・全国の自治体へアルミ缶回収に関するアンケート調査を実施し、現状を把握するとともに当協会の活動内容についての理解度向上を図ります。

- ・リデュース・リユース・リサイクル推進協議会主催の「3R推進功労者等表彰」の候補者推薦を継続して行います。

②アルミ缶回収表彰制度の認知度向上

- ・「アルミ缶小・中学校回収協力者表彰」、「アルミ缶一般回収協力者表彰」、及び「優秀回収拠点表彰」制度の認知度向上を目的に、学校・自治体、回収拠点、社会福祉協議会等への表彰制度PRを継続します。

- ・都道府県別の登録回収拠点の中身を見直し、アルミ缶回収協力者表彰への推薦が出やすい環境を整備します。

実績推移

1)リサイクル率とリデュース率

	2020年度目標	2019年度	2020年度	対前年増減
リサイクル率	90%以上	97.9%	94.0%	▲3.9%
リデュース率	5.5%以上	5.4%	5.8%	+0.4%
	16.08g以下	16.10g	16.03g	▲0.07g

2)アルミ缶回収表彰(優秀賞件数)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標
小・中学校	54件	51件	46件	46件
一般	63件	59件	59件	59件

(2) 広報・啓発活動の推進

アルミ缶及び回収活動への理解を深めてもらうための広報・啓発活動を行い、情報のアップデートに努めます。

① 若年層への環境教育としての広報・啓発活動

- 環境教育への協力、支援として小中学校向けにパンフレット/小冊子、DVD、ポスター等の配布、再生地金サンプル等の教材を貸し出します。
- 中学生の修学旅行時等の来協学習を受け入れます。
- 小・中学校への出前教育を積極的に実施します。

② 自治体・消費者への広報・啓発活動

- 自治体や各消費者団体主催の展示会、自治体講演会への参加、各種書籍・雑誌への寄稿等を行います。
- エコプロ2021展示会がリアルで開催される場合には参加します。
- タブのみ回収の防止活動については引き続き正確な情報提供を行います。(歴史的な経緯と怪我の危険性)
- ホームページにタイムリーな情報提供を行うと共に、協会やアルミ缶回収のPRを行います。

③ マスコミ関係者や支援団体への広報・啓発活動

- 定期的に報道発表を実施する。(6月:単年度事業計画とアルミ缶需要予測、リサイクル率、リデュース率)
- リサイクル施設の研修見学会を実施します。(10月)
- 広報紙「リサイクルニュース」(4回/年発行)を発行、配付します。

(3) 調査・情報提供活動の推進

- 2020年度「アルミ缶リサイクル率」(「CAN to CAN率」含む)、2020年度「アルミ缶リデュース率」、2019年度「アルミ缶再生利用フロー」を調査・公表します。
- 日本アルミニウム協会等と連携し、タイムリーな調査分析・情報発信に努めます。
- アルミ缶輸出入数量、及び世界のリサイクル率について、データ精度の向上に努めます。

(4) 当協会企画委員会、ワーキンググループ(WG)活動の推進

- 当協会が当面する課題や対応を企画委員会と各WGで対応していきます。特にリサイクルフロー調査WG、3R推進WG、広報WGでは、リサイクル率向上のための施策、自主行動計画のフォローアップ、効率的・効果的な広報活動の推進に取り組みます。

(2) 3R推進団体連絡会メンバーとしての活動

「自主行動計画2025」に引き続き取り組みます。

(1) 事業者自ら実践する3R推進計画の推進

- リデュース率とリサイクル目標達成に向けて取り組みます。

(2) 普及・啓発活動の推進

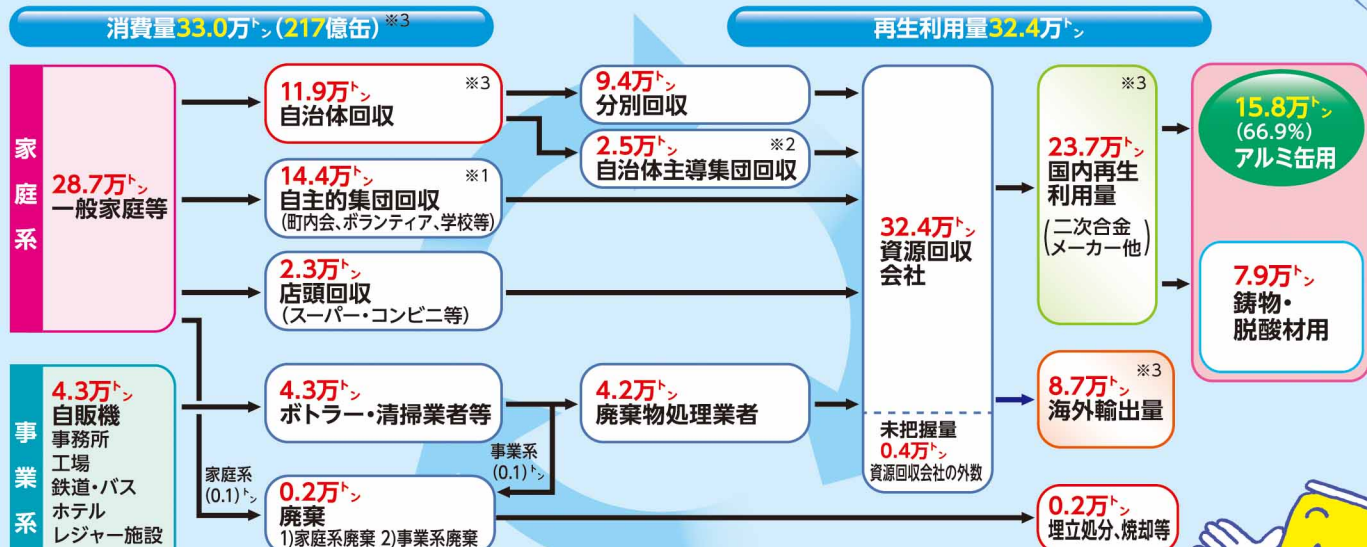
- 3R推進フォーラム、3R交流セミナー意見交換会(3都市予定)等により市民、行政との意思疎通を図ります。
- 市民リーダー育成のための支援、エコプロ展示会への参加、リサイクル冊子の作成・配布等を行います。

(3) 今後の中長期活動計画における活動

- 自主行動計画2025に沿って、事業活動に参画します。

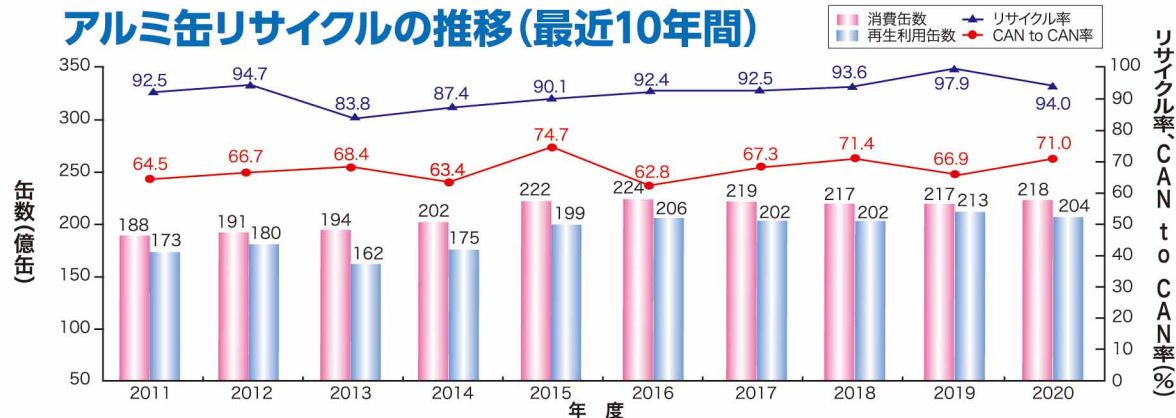
2019年度 アルミ缶再生利用フロー図

アルミ缶消費重量は33.0万トン。再生利用重量は32.4万トン(国内23.7万トン+輸出8.7万トン)。リサイクル率は海外輸出を入れて97.9% CAN to CAN率は66.9%



注) 1.自主的集団回収の14.4万トンは、調整数値。
2.2012年自治体アンケート調査により、自治体回収量の約2割は自治体主導回収分と推定。
3.消費量、国内再生利用量、自治体回収量、海外輸出量以外の数値は推定値。
4.全ての数値は組成率87.8%を反映した後の数値。

アルミ缶リサイクルの推移(最近10年間)



日本の飲料用アルミニウム缶需要量 (1~12月)

単位：億缶

暦年	2019年実績		2020年見込み		2021年予測		
		前年比 %		前年比 %		前年比 %	
液種別 国産缶 出荷量 A	ビール (発泡酒・新分野含む)	94.2	99.2	95.2	101.1	94.0	98.7
	ビール	44.0	111.7	48.6	110.5	51.0	104.9
	その他アルコール						
	以外の	75.7	96.8	68.9	91.0	68.5	99.4
	非アルコール						
飲料	計	119.7	101.8	117.5	98.2	119.5	101.7
小	計	213.9	100.6	212.7	99.4	213.5	100.4
	(内ボトル缶数量)	(24.7)	94.6	(22.3)	90.3	(22.0)	98.7
	空缶輸入量 B	0.7	233.3	1.8	257.1	1.0	55.6
	実缶輸入量 C	3.8	71.7	4.0	105.3	4.0	100.0
	実缶輸出量 D (空缶輸出含む)	1.1	68.8	0.6	54.5	0.6	100.0
	国内需要量 合計 (A+B+C-D)	217.3	100.3	217.9	100.3	217.9	100.0

参考 北米の飲料用アルミニウム缶需要

単位：億缶

暦年	2018年実績		2019年実績		2020年速報		
		前年比 %		前年比 %		前年比 %	
	アルコール飲料 (ビール他)	356.1	97.6	384.1	107.9	421.2	109.7
	ノンアルコール飲料 (清涼飲料他)	584.3	102.5	588.1	100.7	611.2	103.9
	合計	940.4	100.6	972.2	103.4	1,032.4	106.2

(注1) 2020年は速報値 (米国製缶協会調べ)

参考 世界各国のアルミ缶リサイクル率(参考) (2021年6月末日更新)

国名	リサイクル率 (%) リサイクル率の算出方法は各国で異なる						
	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
イギリス*1	65	65	65	68		72	75
イタリア*1	67	72	74	70		71	78
フランス*1	57	64	67	68		58	66
ドイツ*1	96	99	99	99		99	99
スペイン*1	65	66	66	62		62	70
ノルウェー*1	96	95	95	96		98	95
アメリカ*2	67	66.7	66.5	64.3		63.3	63.9
ブラジル*3	97.9	97.1	98.4	97.9	97.7	97.3	96.9
韓国*4	81	87	78	75	76	79	82
日本	94.7	83.8	87.4	90.1	92.4	92.5	93.6

*1 リサイクル率:EAA (European Aluminium)のプレスリリースより

*3 ABRALA TAS のホームページより

*2 リサイクル率:AA (The Aluminum Association)のレポートより

*4 KORA のホームページより

協会からのお願い

● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえ、キャップを軽く締めて回収に出してください。

● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。

アルミ缶の
リサイクルは
タブをつけたままで!



編集後記

- ワクチン接種開始により、未だ予断を許しませんがコロナもわずかな光が見えてきました。昨年来、生活環境が全く変わり疲れている方も多いのではないのでしょうか？この号が発刊される頃には2020東京オリンピックも開幕している時期です。
- 例年の事ですが、今年も暑い夏がもうそこまで来ています。皆様も体調に留意されコロナに負けず、楽しい夏を過ごされることを祈念いたします。

アルミ缶リサイクルニュース第156号

発行日 2021年7月20日
 発行人 保谷 敬三
 編集人 小林 裕
 発行所 アルミ缶リサイクル協会